

## 2. インタビュー調査

### 1) 研究目的・方法

#### (1) 目的

高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤立死を防ぐための地域見守り組織のありかたについて検討を行うために、見守り組織メンバーとなっている地域住民と見守り組織を支援してきた専門職へのインタビューデータを基にした質的帰納的な分析を行った。

#### (2) 調査対象者と方法

本研究のデザインは質的帰納的研究である。

調査対象者は、了解の得られた地区で見守り組織メンバーとなっている地域住民7人と見守り組織づくりを支援してきた専門職2人である(表1)。

表1 神戸市須磨区におけるインタビュー対象者の概要

[見守り組織の地域住民]					
面接状況	事例	性別	年代	地域での役職	該当地区 居住年数
グループ面接1	S1	女性	70代	民生委員	25年
グループ面接1	S2	女性	60代	友愛訪問ボランティア	5年
グループ面接1	S3	女性	60代	友愛訪問ボランティア	5年
グループ面接1	S4	女性	60代	友愛訪問ボランティア	3年
グループ面接1	S5	女性	50代	友愛訪問ボランティア	2年
グループ面接1	S6	女性	50代	友愛訪問ボランティア	1年
個人面接1	S7	男性	60代	民生委員	24年

  

[区保健師・訪問看護センター職員]					
面接状況	事例	性別	年代	職業	現職場での 従事年数 (通算)
個人面接1	S8	女性	50代	区保健師	2年(28年)
個人面接2	S9	女性	40代	訪問看護センター 所長(看護師)	5年(20年)

面接時期は2008年12月～2009年3月に、インタビューガイドを用いた半構成的面接を研究者らが実施した。面接時間は約60分程度である。面接の形態は、個別に実施した場合とグループで実施した場合とがある。

インタビューガイドの内容は、大まかには「①調査対象者の知っている事例」と「②見守り支援に関する内容」とに分けられる。インタビューガイドは見守り組織の地域住民と専門職はともに、同様のものを使用した。

前者の「①調査対象者の知っている事例」については、在宅高齢者における孤独死の事例、見守りが難しい事例、見守りの必要性の有無が把握できない事例、孤立している住民をうまく援助できた事例およびできなかった事例について、できるだけ具体的に把握でき

るようにたずねた。

後者の「②見守り支援に関する内容」については、当該地区の見守りネットワーク活動で困っていること、当該地区見守りネットワークが行っている活動や行政・専門職との連携状況、当該地区見守りネットワークが果たすことのできる役割と今後の課題、高齢者の孤立や孤立死防止のために行政や専門職に求める役割、見守り組織をつくるまでの今までの経緯および地域包括支援センターや住民の働きかけや役割などについて、把握することを意図してインタビューを実施した。

以上のインタビュー内容について、調査対象者の同意を得てICレコーダー等に録音し、逐語録を作成した。なお、すべての対象者から録音の同意を得ることができた。

### (3)分析

逐語録から高齢者の孤立死、見守り支援のありかたや組織づくりに関連すると思われる内容を意味毎にくぎり、可能な限り、対象者の表現を活用し、コードをつけた。さらに、コードをもとに、地区別比較をしながら、カテゴリを作成し、さらにカテゴリをまとめて、テーマとした。これらの分析過程では、研究グループ内で数回にわたり、討議を行い、コード、カテゴリ、テーマ等の表現と分析の適切性を確保するように努めた。

### (4)倫理的配慮

調査対象者には書面と口頭で本研究の趣旨、目的と方法を説明し、対象者から文書にて同意を得た。また、調査協力は自由意思に基づくものであり、いつでも中止可能であること、研究目的以外では得られたデータを使用しないことを説明した。なお、本研究は、甲南女子大学看護リハビリテーション学部研究倫理委員会から承認をうけて実施している。

## 2)結果

### (1)見守り組織の地域住民へのインタビューの質的分析結果

地域住民へのインタビューから得られた質的分析についてのテーマとカテゴリを表 2-1～4 に示す。

表2-1 見守り住民に対するインタビューから得られた質的分析の概要-1

テーマ	カテゴリ
孤立死のとらえかた	健康そうに見えた高齢者の突然の死も稀ではない 担当地区で孤立死に遭遇した 友愛訪問は孤立死防止にもつながる 見守りにも限界はある
孤立死発見のプロセス	郵便受けにたまっていた新聞から孤立死に気づいた ついたままの部屋の明かりから孤立死に気づいた マンションの通路にウジ虫が発生したので孤立死に気づいた マンションの通路の悪臭から孤立死に気づいた 見守り訪問したら独りで亡くなられていた 見守り推進員や専門職と一緒に動いた
見守り対象となる高齢者	家族や親戚との交流がない高齢者 見守り訪問を拒否する高齢者 近隣との交流がない閉じこもり傾向にある高齢者 留守が多く状況がつかみにくい高齢者 独居の男性高齢者 認知機能の低下による問題がみられる高齢者 買い物や散歩など外出の少ない高齢者 災害復興住宅や高層マンションなど集合住宅に住む高齢者 区外からの転入者 在日の外国人高齢者 無職の子どもと同居している高齢者 経済面に問題のある高齢者 十分な食事がとれていない高齢者 火の始末や衛生面に問題のある高齢者 自分から支援を求めることができない・求めようとしていない高齢者

表2-2 見守り住民に対する面接から得られた質的分析の概要-2

テーマ	カテゴリ
見守りのための テクニック	定期的な連絡会で情報交換する 家事をしている場面を見守る 見守る時間滞の工夫 交流会やサロンで見守る 既存のサービスを使って安否確認をする 本人の了解をとる 日頃の挨拶をこまめにする 震災体験を共有する 相手との適度な距離 顔なじみの関係づくり 相手が必要としている情報を提供する 高齢者理解を深めるための自己研鑽 見守り推進員や関係機関との連携

表2-3 見守り住民に対する面接から得られた質的分析の概要-2

テーマ	カテゴリ
見守りのための 組織作り	神戸市独自の見守りシステムの展開 あんしんすこやかセンターとの連携 住民組織間での交流の機会をつくる 犬の散歩グループで見守り活動をする 子育て世代との交流の場をつくる 組織作りの過程で行政のバックアップを得る リーダーとなる人材を見つける 近隣の民生委員間での協働

表2-4 見守り住民に対する面接から得られた質的分析の概要-2

テーマ	カテゴリ
見守り困難な点	友愛ボランティアの担い手育成が困難 異性への見守りには気がつかう 見守りを拒否している高齢者の意思が尊重できているかの判断 集合住宅の構造が情報把握を困難にしている 緊急時の状況判断・対応に戸惑う 転入転出が多く、状況把握が困難 県外の家族・親類との連絡が困難 見守り活動への認識が多様であり、対象者から同意を得にくいことがある 表面化しない問題への対応は困難 健康面の観察が難しい場合がある

①孤立死のとらえかた

テーマ「孤立死のとらえかた」に関するカテゴリとコードの一覧について、表3に示す。

表3 テーマ「孤立死のとらえかた」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死のとらえかた	<p><b>【健康そうに見えた高齢者の突然の死も稀ではない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まさか」という人が予期していない形で急に亡くなった。</li> <li>・訪問したらテレビがつけたままで亡くなっていた</li> <li>・日頃の見守りでは元気そうであったので突然の死に驚いた</li> <li>・病状の悪化などを早期に捉えるためには専門職との連携必要</li> </ul>
	<p><b>【担当地区で孤立死に遭遇した】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害復興住宅での孤立死が多い</li> <li>・マンションでの孤立死は発見が遅れることがある</li> <li>・孤立死の第一発見者になった際どのように動けばよいかを知りたい</li> <li>・家族との連絡のとり方を把握しておくことが必要</li> <li>・低所得の高齢者は孤立死のハイリスクでもある</li> </ul>
	<p><b>【見守りにも限界はある】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクが高い高齢者の情報ほど把握しにくい</li> <li>・突然死は住民の見守りだけでは限界がある</li> <li>・見守りの担い手も高齢化している</li> </ul>

## ②孤立死発見のプロセス

テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリとコードの一覧について表4に示す。

表4 テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死発見の プロセス	<p><b>【郵便受けにたまっていた新聞から孤立死に気づいた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞がたまっているということで民生委員や友愛訪問が発見</li> </ul>
	<p><b>【ついたままの部屋の明かりから孤立死に気づいた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地内の見守りで、長期に明かりがついていることで発見した</li> </ul>
	<p><b>【マンションの通路にウジ虫が発生したので孤立死に気づいた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ階の住民がマンション通路を掃除中にウジ虫を発見し、不信に思い見守り推進員に連絡し発見した</li> </ul>
	<p><b>【マンションの通路の悪臭から孤立死に気づいた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションの住人が階段や部屋の前からの臭いで異変に気づいた。</li> <li>・民生委員が訪問の際、室内からの悪臭で発見した。</li> <li>・アパートの階下の住人が異臭を不信に思い管理者に連絡し発見</li> </ul>
	<p><b>【見守り訪問したら独りで亡くなられていた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に許可を得て室内に入ったら風呂場で亡くなられていた</li> <li>・見守り訪問したら、玄関先で倒れて亡くなられていた</li> <li>・定期通院していた人が亡くなられた</li> </ul>
	<p><b>【見守り推進員や専門職と一緒に動いた】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友愛訪問の際、マンションの住民から「どうも様子がおかしい」などの情報が入ると見守り推進員と訪問する</li> <li>・単独の訪問は困難な時には、民生委員や見守り推進員と一緒に動くようにしている</li> <li>・警察や消防署との連携の仕方を具体的に知りたい</li> <li>・孤立死に関する事例などから対応の仕方を知りたい</li> </ul>

③見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧は表 5-1～2 に示す。

表5-1 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる 高齢者	<p><b>【家族や親戚との交流がない高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族間の諸事情により音信不通や離別となっている</li> <li>・ 震災で家族を失った高齢者も多い</li> <li>・ 本人の生き様により家族から見放されている</li> </ul>
	<p><b>【見守り訪問を拒否する高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「福祉の世話にはなりたくない」という高齢者</li> <li>・ 「お国の世話にはなりたくない」と民生委員の訪問を拒否</li> <li>・ 自分のペースを乱されたくない。</li> <li>・ 若い頃から一人でいる方が楽だった</li> </ul>
	<p><b>【近隣との交流がない閉じこもり傾向にある高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災後、区外から転入してきたので古くからのつきあひもない</li> <li>・ 集まりに誘っても反応がない</li> <li>・ 回覧やチラシにも反応しない</li> <li>・ 外出するきっかけがない</li> <li>・ 近隣の住民も互いの干渉を好まない</li> <li>・ 広報やチラシ</li> </ul>
	<p><b>【独居の男性高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妻に先立たれ、生きる希望がなくなった。「はやく婆さんのところへ行きたい。生きていてもつまらない」と言う</li> <li>・ 「もうどうでもいい」という言葉の真意を理解したい</li> <li>・ 男性の湯愛訪問もできると良い</li> <li>・ 地域の中で、男性の居場所づくりが必要</li> </ul>
	<p><b>【認知機能の低下による問題がみられる高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲の者が、疾患について正しい知識を持つことが大切</li> <li>・ 認知症の高齢者の対応に困った際は、あんしんすこやかセンターに相談する</li> <li>・ 認知症に関する知識を知りたい</li> <li>・ 認知症の人からのメッセージを大切にする</li> <li>・ 本人からの言葉以外の態度や表情なども大切にする</li> <li>・ 認知症の高齢者の方の外出時には、交通事故などにあわないよう周囲の者が安全に配慮する</li> <li>・ 火の始末ができていないか、近所の人が心配する</li> </ul>

表5-2 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる 高齢者	<p><b>【災害復興住宅や高層マンションなど集合住宅に住む高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションの鉄のドアを閉めると中の状況が把握できない</li> <li>・大規模マンションは転入出が多く状況把握が困難である</li> <li>・マンション間の居住者の交流が希薄</li> <li>・高層であると外出もしづらくなる</li> </ul>
	<p><b>【区外からの転入者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後、区外からの転入者の中には地域になじめない者もある</li> <li>・幼なじみなどの友人も少ない</li> <li>・転入した区の高齢者サービスなどの情報が入りにくい</li> </ul>
	<p><b>【在日の外国人高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的問題を抱えている高齢者もいる</li> <li>・同じ国出身者のコミュニティを区外に持っている</li> </ul>
	<p><b>【無職の子どもと同居している高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的問題や家族関係に問題を抱えていることがある</li> <li>・見守りなどを子どもが拒否する</li> <li>・近所から孤立した世帯もある</li> </ul>
	<p><b>【経済的に問題のある高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立死のリスクも高い</li> <li>・必要なサービスの利用もできない</li> </ul>
	<p><b>【十分な食事がとれていない高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービスの利用なども望まない</li> <li>・本人はあまり気にとめていない様子</li> <li>・経済的にも問題があることが多い</li> </ul>
	<p><b>【自分から支援を求めることができない・求めようとしない高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に困っている人の中には、民生委員などにも問題を隠すことがあるので、信頼関係を築きながら支援を続ける</li> <li>・自ら求めない高齢者には特に日頃から気をつけて距離を保ちながら見守っている</li> <li>・困ったことを自ら発信できる高齢者は、いろいろな方法でサービスを活用できている</li> </ul>



#### ④見守りのためのテクニック

テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリとコードの一覧については、表6-1～2に示す。

表6-1 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	<p><b>【定期的な連絡会で情報交換する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔をあわせて話し合う場が必要</li> <li>・見守り推進員との情報を共有する</li> <li>・自分の対応がよかったかの助言を仲間からもらえる</li> <li>・うまく対応できている仲間のやり方を参考にする</li> </ul>
	<p><b>【家事をしている場面を見守る】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会食会やサロンで見守る</li> <li>・ゴミ出しの日に見守る</li> <li>・ベランダで洗濯物を干す姿などを見守る</li> </ul>
	<p><b>【見守る時間滞の工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿を見かけなかった時には、朝昼夕と時間滞をずらして安否確認</li> </ul>
	<p><b>【交流会やサロンで見守る】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会に参加した人には、電話や絵手紙でフォローしている</li> </ul>
	<p><b>【既存のサービスを使って安否確認をする】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービス、ヤクルト配達なども見守りのチャンスとなっている</li> <li>・自治会費を集めるのも見守りの機会</li> <li>・コーポの協同購入、IC見守りシステムによる見守り</li> </ul>
	<p><b>【本人の了解をとる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に訪問日時を本人と決めておく</li> <li>・長期の外出時には声かけてもらえるよう本人と決めておく</li> <li>・元気であるという合図をきめておく</li> </ul>
	<p><b>【日頃の挨拶をこまめにする】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が反応してくれなくても、あきらめずに声かけを続けていると心を開いてくれることもある</li> <li>・団地内や道で出会った際は、必ず挨拶する</li> </ul>
	<p><b>【被災体験を共有する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に震災を体験し乗り越えた連帯感を大切にす</li> <li>・災害時の高齢者の避難・安全確保を日頃から考えておく</li> </ul>

表6-2 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	<p><b>【相手との適度な距離】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監視にならないよう常に心がける</li> <li>・強制したりせず、「何かあったら、ここに連絡してね」と伝える</li> <li>・本人の決定を大切にする</li> <li>・相手の気持ちに立ち入り過ぎないように配慮する</li> </ul>
	<p><b>【顔なじみの関係づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔をみて直接話すことが大切</li> <li>・困った時には自分の顔を思い出してもらいたい</li> </ul>
	<p><b>【相手が必要としている情報を提供する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者になると、役場からの文書やチラシも読み難かったり、理解しにくかったりして必要な情報が伝わらない</li> <li>・訪問時に、実際に読んであげたり、わかりやすく説明してあげる</li> </ul>
	<p><b>【管理組合の名簿から見守り対象者を把握する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅の情報は把握しにくい</li> <li>・名簿の高齢者には、見守りについて本人の了解を事前にとる</li> </ul>
	<p><b>【友愛ボランティア手帳の活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区の社会福祉協議会が作成した「須磨区友愛訪問活動ハンドブック」を活動の参考にしている</li> </ul>
	<p><b>【高齢者理解を深めるための自己研鑽】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や講演会では自分たちの活動について発言する</li> <li>・日頃から意識して、新聞やテレビからの情報に目を向ける</li> <li>・高齢者と実際に関わる経験を通して学ぶ</li> <li>・定例会などでの他者の活動が参考になる</li> </ul>
	<p><b>【見守り推進員や関係者との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り推進員との連携により活動がやりやすい</li> <li>・区役所やあんしんすこやかセンターに相談すれば助言がもらえる</li> <li>・民生委員の定例会などに参加してもらいアドバイスをもらったり、情報交換する</li> </ul>

### ⑤見守りのための組織作り

テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 7-1～2 に示す。

表7-1 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための 組織作り	<b>【神戸市独自の見守りシステムの展開】</b> ・神戸市では見守りの独自のシステムがあるので活動しやすい
	<b>【あんしんすこやかセンターとの連携】</b> ・民生委員会の定例会で情報交換や意見をもらう ・専門職と一緒に話し合うと、いろいろな意見が出て活動に生かすことができる
	<b>【住民組織間での交流の機会をつくる】</b> ・元々ある地域の組織間で合同の会をもつ ・PTA の活動と高齢者の交流会を開催した ・リーダーとなる人が見つければ立ち上がりやすかった。
	<b>【犬の散歩グループで見守り活動をする】</b> ・犬の散歩は、毎日朝夕なので見守りにはよい ・自然な形でグループができた ・メンバーは PTA 活動している人など様々なので地域の情報が入りやすい
	<b>【子育て世代との交流の場をつくる】</b> ・児童館と老人会がうまく交流できた ・子育て中の若い親たちは、子どもの安全に関心が高いのでその中に高齢者の問題も組み込む

表7-2 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための 組織作り	<b>【組織づくりの過程で行政のバックアップを得る】</b> ・助成金などを活用する ・講師の紹介や組織の作り方のアドバイスを専門職からもらう
	<b>【リーダーとなる人材を見つける】</b> ・退職後の男性の力をかりたい ・現役時代の技術や経験を生かしてほしい
	<b>【近隣地区の民生委員間での協働】</b> ・定期的に情報交換や勉強会を開催している ・商店街にある地区に高齢者の買い物時の見守りに協力してもらう

### ⑥見守り困難な点

テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 8-1～2 に示す。

表8-1 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り困難な点	<b>【友愛ボランティアの担い手育成が困難】</b> ・高齢化しており後継者の養成が必要 ・男性の協力がほしい
	<b>【異性への見守りには気をつかう】</b> ・立ち入りすぎたら相手に嫌がられるのではないか、という気持ちがある。 ・挨拶はしても、家の中に入り込めない。
	<b>【見守りを拒否している高齢者の意思を尊重できているかの判断】</b> ・本人の意思を尊重することが大切であるが兼ね合い難しい ・本当に困っている人の生活全体が見えてこない。
	<b>【集合住宅の構造が情報把握を困難にしている】</b> ・マンションだと把握しづらい。

表8-2 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り困難な点	<b>【転入出が多く、状況把握が困難】</b> ・転入出の多い集合住宅や新興住宅地の活動は難しい。
	<b>【県外の家族・親類との連絡が困難】</b> ・県外の家族への情報を持っていないと緊急時の対応で困る
	<b>【表面化しない問題への対応は困難】</b> ・虐待など見えにくい問題への見守りの仕方がわからない
	<b>【健康面の観察が難しい場合がある】</b> ・高齢者の病状の急変には不安がある

(2)見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューの質的分析結果

見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューから得られた質的分析についてのテーマとカテゴリを表9に示す。

表9.地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員に対するインタビューから得られた質的分析の概要(神戸市須磨区)

テーマ	カテゴリ
区の特性を生かした見守りシステム	神戸市の見守り活動システムによる区の活動 区各地区の状況を踏まえた活動
見守り対象となる高齢者	家族や近所とつながりがない高齢者 介入を拒否する高齢者 区外から転入した高齢者 経済的問題のある高齢者 慢性疾患や心身に障がいのある高齢者 関係機関から相談のあった高齢者
高齢者への支援	個別対応にメンバーと一緒に動く 緊急時の介入 専門職間でのチーム対応 本人の意志確認と自己決定を支援する 看護職の視点
組織・地域への支援	見守りネットワーク活動の普及・啓発 住民組織の育成支援 実態の把握と分析 施策への反映 生きたネットワークの構築
支援の困難な点	個人情報の扱い方 在宅高齢者の危機管理 制度の網の目にある高齢者への支援 見守り活動の低迷地域の活性化 新興住宅地域や復興住宅で生活する高齢者の実態把握 支援を拒否する高齢者への説明と同意

①区の特徴を生かした見守りネットワーク

テーマ「区の特徴を生かした地域見守りネットワーク」に関するカテゴリとコードの一覧については、表2に示すとおりである。

表2.テーマ「須磨区の特徴を生かした地域見守りネットワーク」に関する  
カテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
区の特徴を生かした地域見守りネットワーク	<p><b>【神戸市の見守り活動システムによる区の活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須磨区には8カ所のあんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）が配置されている。</li> <li>・各あんしんすこやかセンターには、見守り推進員が1名配置されており、民生委員や友愛訪問グループの活動をバックアップしている</li> <li>・地域ケア会議や高齢者虐待防止ネットワーク運営会議等が定期的に開催され専門職や関係機関間の情報交換や事例検討等が行われている</li> </ul>
	<p><b>【各地区の状況をふまえた活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須磨区は、神戸市の中西部に位置し。南側の古くからある市街地と北側の大規模なニュータウンとで構成されている</li> <li>・災害復興住宅が8棟建設され、被災した高齢者が多く居住している</li> <li>・大規模のマンションでは対象となる高齢者の状況がつかみにくい</li> <li>・見守りの担い手である友愛ボランティアの高齢化に伴い、新たな担い手を養成することが課題となっている</li> </ul>

## ②見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 3 に示すとおりである。

表 3.見守り対象となる高齢者

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象 となる高齢者	<p><b>【家族や近隣とのつながりがない高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災により独居となった者</li> <li>・区外に家族がいるが音信不通や絶縁状態にある者</li> <li>・退職した後、地域との交流がない者</li> <li>・妻が亡くなり独居となった高齢男性</li> </ul>
	<p><b>【介入を拒否する高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のことは放っておいてくれ、干渉しないでくれ」と拒否</li> <li>・「あんたたちに関わられることで、自分の意思が貫徹できない」と拒否</li> <li>・自分のやり方やペースを変えられるのではないかと不安に思う</li> <li>・家族や自身のプライバシーを詮索されるのではないかと不安に思う</li> </ul>
	<p><b>【区外から転入した高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後区外から転入し、新しいコミュニティになじめない者</li> <li>・区外から転入し、昔なじみの友人や知人がいない者</li> <li>・転入者の多い復興住宅では近隣に干渉しないされたくない者が多い</li> </ul>
	<p><b>【経済的問題のある高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なサービスの利用に制限がかかり、本人の QOL の低下につながる</li> <li>・本人自身からサービス利用を中断する</li> <li>・福祉制度の網の目にかからず生命が脅かされることがある</li> <li>・栄養状態や衛生面での悪化が生じる</li> <li>・買い物など外出の機会が少なくなり閉じこもりがちになる</li> <li>・既存の資源の運用や法律の解釈によりサービス適用範囲を広げる</li> <li>・経済的問題を抱えている介護者を追い詰めない支援が必要</li> </ul>
	<p><b>【慢性疾患や心身に障がいを持っている高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病状悪化により急死や不慮の事故をまねくことがある</li> <li>・医療や看護専門職との連携により継続した支援や見守り必要</li> <li>・抑うつなどのリスクも高くなる</li> <li>・介護者による虐待をまねくことがある</li> <li>・介護予防事業等を通して実態把握を行う</li> </ul>
	<p><b>【関係機関から連絡のあった高齢者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の関係機関ネットワークにおいて、より適切な機関へつなぐ</li> </ul>

### ③高齢者への支援

テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表4に示すとおりである。

表4.テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
高齢者への 支援	<p><b>【個別対応メンバーと一緒に動く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員や友愛訪問ボランティアからの相談に対する具体的な助言や、必要に応じて同行訪問などを行う</li> <li>・とりあえず一緒に現場に行ってみる</li> <li>・日頃から迅速に対応することにより住民や見守りメンバーとの信頼関係が築ける</li> <li>・一緒に動くことで今後の連携が円滑になる</li> <li>・一緒に動いた後の効果を評価する</li> </ul>
	<p><b>【緊急時の介入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの情報により、早期の受診や治療につながった</li> <li>・神戸市のシステムの中で迅速に対応する</li> <li>・システムの内容を関係者に理解してもらう</li> <li>・緊急介入に必要な情報を集約する</li> <li>・区外の公的機関との連携をコーディネートする</li> </ul>
	<p><b>【専門職間でのチーム対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を蓄積し今後の介入に役立てる</li> <li>・高齢者見守りネットワーク等の会議において情報を共有する</li> <li>・専門職種毎の役割や機能を相互に理解し活用できるようにする</li> </ul>
	<p><b>【本人の意志確認と自己決定を支援する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体は本人である</li> <li>・本人の意思の内容や状況によって、計画していた支援内容を柔軟に変更することも必要</li> <li>・本人の意思に添えない現行のシステムであれば、新たに作り変えることも必要</li> </ul>
	<p><b>【看護職の視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人自身が、今ここに存在することの意味と価値が見いだせるよう支援する</li> <li>・地域の慣習や、本人と地域の関係性をアセスメントして支援する</li> <li>・高齢者の拒否の言葉の本意をアセスメントし、根気よく支援を続ける</li> <li>・支援者と本人（高齢者）と一緒に目標を立てる</li> <li>・本人の気持ちの変化を待つ</li> <li>・結果や支援のプラス面、マイナス面を本人に説明し納得してもらう</li> </ul>



#### ④組織・地域への支援

テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 5 に示すとおりである。

表 5.テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
組織・地域 への支援	<b>【地域見守りネットワーク活動の普及・啓発】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待ネットワークなどで活動の報告をする</li> <li>・各あんしんすこやかセンターや関係機関から情報提供してもらう</li> <li>・弁護士から必要な情報や知識を伝えてもらう</li> </ul>
	<b>【住民組織の育成支援】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り推進員や区の担当者、区社協の職員は、民生委員や友愛訪問グループの定例会に参加し助言や情報交換を行っている</li> <li>・組織のニーズにそった研修や講演会を計画する</li> <li>・須磨区の民生委員の活動を全国大会で発表することになり、民生委員と一緒に発表の準備した</li> </ul>
	<b>【実態把握と分析】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等との協働で実態調査の分析を行った</li> <li>・神戸市民を対象とした調査の中で須磨区の状況を比較検討する</li> <li>・得られた結果を住民にわかりやすい方法で伝える</li> </ul>
	<b>【施策への反映】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民のニーズを分析し、行政の施策へ提言する</li> <li>・須磨区の中期計画で方向性を出している</li> </ul>
	<b>【生きたネットワークの構築】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時にすぐに発動できるネットワークでないと意味がない</li> <li>・現場のスタッフの活動を精神面からも支えるようなネットワークが必要</li> </ul>

### ⑤支援の困難な点

テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 6 に示す。

表 6.テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
	<p><b>【個人情報の扱い方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の生命や安全のために本当に必要な情報であれば共有すべき</li> <li>・ 本人や家族への説明の仕方が重要</li> </ul>
	<p><b>【在宅高齢者の危機管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアマネージャーの研修会で、介護保険サービスを受けている一人暮らしの高齢者と連絡がとれない場合、安否確認のためにケアマネージャーはどこまですべきなのかについて検討した。</li> <li>・ 警察や消防から具体的な助言を得る</li> <li>・ 警察や消防、関係者間で事例を交えた具体的な話し合いの場をつくる</li> </ul>
	<p><b>【制度の網の目にある高齢者への支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在のサービス制度の適応にならない高齢者がいる</li> <li>・ 高齢者の生命、安全を守ることが前提で、そのためには何が必要であるかを判断する必要がある</li> </ul>
	<p><b>【見守り活動の低迷地域の活性化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーとなる人材を日頃の保健福祉活動の中でみつける</li> <li>・ 友愛訪問や民生委員の高齢化により後継者が不足している</li> <li>・ 住民の負担にならないようなバックアップが必要</li> </ul>
	<p><b>【新興住宅地域や復興住宅で生活する高齢者の実態把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政と協働して実態を把握する必要がある</li> </ul>
	<p><b>【支援を拒否する高齢者への説明と同意】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り活動やサービスを利用するにあたり本人の意思や同意を得るようにする。高齢者に理解できる文章を作成し口頭と書面で同意を得る</li> <li>・ 意思の把握方法としては、見守り活動を、今すぐうけたい、困った時</li> </ul> <p>になど選択肢を用意し本人に選んでもらうような工夫をしてはどうか</p>

## 第4章 まとめ

### 1. アンケート調査のまとめ

本研究の目的は、セルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期把握のために求められている都市や僻地の地域見守り組織について、見守り専任職員の雇用の有無による活動の違いと課題を明らかにし、それぞれの地域に適したセルフ・ネグレクトの早期発見・見守り組織や地域包括支援センター等との連携のあり方を考えることにある。

上記の目的の下、神戸市須磨区（都市部における活動）において地域見守り組織への実態把握と分析が行われた。その結果から以下の3点をまとめた。

#### 1) 地域特特別見守り組織特徴と課題

**特徴：** あんしんすこやかセンターに配置されている見守り推進員と地域の友愛訪問グループや民生児童委員が連携をとり積極的に活動が行われている。

**課題：** 友愛訪問グループ等見守りの担い手は、女性が多く、近年高齢化しているため、次世代の育成が課題となっている。

#### 2) 日常の見守り活動の状況と課題

**状況：** ①見守り活動の中でも、直接対象者の生活状況（身体・精神・社会的状況）が把握できる訪問活動が重視されている。

②近年、認知症の対象者も増えていることや、日頃の見守りでは元気に見えていた方の突然の死なども増加傾向にある。このため、健康面（身体的アセスメント）の判断を専門職と役割分担しながら支援する必要性が高まっている。

③孤立死のハイリスクは健康面の他、閉じこもりや本人の支援拒否などの影響も大きい。

④地域の見守り活動を阻害する3大要因は、本人からの拒否、本人の動向把握の困難性、自分ひとり（非専門家）での重責であった。

**課題：** ①見守り判断基準の整備（特に民生委員や友愛訪問グループ奉仕員は、一人での見守りに重責を感じているため、身体的状況の判断基準や、法的根拠の説明を加える等の工夫見直しが必要である。

②地域住民への啓発活動の促進（具体的には、より早期からの見守り活動に対する理解（PTA や自治会、子育てグループ等）、高齢者に対しては、見守り支援を主体的に活用することで、自らの自立や健康管理を促すのだとの意識を持つような健康教育や啓発活動も必要である。

#### 3) 専門職の見守り支援の有無による活動の実態と課題

**実態：** 須磨区内の地域見守りシステムの中で、保健福祉専門職（あんしんすこやかセンタースタッフ等）は、友愛訪問グループや民生委員の見守り活動に対して、個別にも後方支援を細やかに行っている。その結果として、介護保険等諸制度の有効活用や、病態悪化や急変など緊急時、適切に医療や施設入所へつなぐことができたケースも増えている。

**課題：** 神戸市独自の見守り推進員や、各組織リーダーが協働し次世代の担い手の育成を行う見守り対象者の把握方法や対象の拡大の再検討や、見守り基準の再構成の検討をおこなうこと。

## 2. インタビュー調査のまとめ

### 1) 地域特性格見守り組織の特徴と課題

**特徴：**須磨区では、各地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）に配置されている見守り推進員と地域の友愛訪問グループや民生児童委員などが連携をとりながら積極的に活動が行われている。

須磨区では、13年前の阪神・淡路大震災で甚大な被害をうけており、区内には8棟の災害復興住宅が建設され、被災した高齢者（その多くが見守りの必要な65歳以上の独居高齢者）らが暮らしている。さらに、区外からも多数の被災高齢者が入居したがそのなかには、新たな環境になじむことができず閉じこもりや、地域から孤立した状態の者も多い。

**課題：**友愛訪問グループ等見守りの担い手は、女性が多く、近年高齢化しているため、次世代の育成が課題となっている。積極的に次世代育成に取り組んでいる友愛訪問グループでは、PTAや子育てグループ、自治会などとの交流会を開催し、高齢者の見守り活動への理解と協力を求め一定の成果を出している。

### 2) 日常の見守り活動の状況と課題

**状況：**①災害復興住宅や高層マンションなど集合住宅に住む独居高齢者の安否確認や、健康状態の観察のための訪問活動が重視されている。

②健康状態の観察は状況に応じて、見守り推進員の他、看護や医療専門職と連携している。

③見守りを拒否する高齢者に対しても、見守りの方法を変えたり、日頃からの挨拶や声かけを根気よく続けることで信頼関係が築けた事例も少なくない。

**課題：**見守り活動に必要な判断基準の整備（身体状況の判断・緊急時の対処方法・信頼関係のためのコミュニケーション等）が必要である。

### 3) 専門職の見守り支援活動の状況と課題

**状況：**地域ケア会議や高齢者虐待防止ネットワーク運営会議等が定期的開催され専門職や関係機関間の情報交換や事例検討等が行われている

①見守りや介入を拒否する高齢者や、経済的問題のある高齢者、慢性疾患や複数の疾患を持つ高齢者への支援は、専門職と民生委員や友愛訪問グループ間で役割分担しながら対応している。

②見守り活動や介入を行う際には、高齢者本人の意思を尊重すること、高齢者に理解できる方法で説明し納得してもらうこと、高齢者自身に可能な限り選択（決定）してもらえよう支援している。

**課題：**①次世代の担い手の育成支援

②見守りの対象となる高齢者のニーズ調査

③高齢者の生活圏域の中で日常的に関わる商店や金融機関、コンビニなどを含めた顔の見えるネットワークの構築